

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2796400014		
法人名	社会福祉法人 美木多園		
事業所名	グループホーム 美樹の園(ユニット1 玄武)		
所在地	大阪府堺市南区小代414番地15		
自己評価作成日	平成23年03月01日	評価結果市町村受理日	平成23年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaiqosip/infomationPublic.do?JCD=2796400014&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaiqosip/infomationPublic.do?JCD=2796400014&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年4月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者のほとんどが女性であるため、女性らしさを忘れないよう、支援を行なっています。具体的には、毎日の化粧を欠かさずご自身で難しい方には職員が行なっています。訪問美容ではパーマや毛染めを行なったり、訪問エステで本格的なエステを行なった後プロによるメイクをするなどして、楽しみを持っていただいています。また、生活歴を大切に、趣味の継続であったり、習慣としていたものは出来る限り継続できる環境作りを心がけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者は常に理念を基本として職員に行動してほしいと考えており、職員会議や勉強会をはじめ何でも話し合いながら理念に立ち戻る機会を大切に日々実践しています。利用者の思いにそって、これまでの生活が継続できるように支援したり、趣味のカラオケや芝居を観に行ったり、友人の家に付き添ったり、家族と一緒に一泊旅行に出掛けるなど、その人らしい暮らしの支援に努めています。また地域にも開かれた事業所となるべく、地域の行事に参加する他、事業所で行われている絵手紙や押し花、エステ等の催しを地域の方々にお知らせしたり、ホームの夏祭りの際にもボランティアとして地域の方にも手伝いに来てもらうなど積極的に交流を図っています。運営推進会議に多数の家族の参加があり、またアンケートや書面にて意見や要望を聞く機会があり運営に活かすと共に家族との信頼関係が構築されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に毎年事業計画や目標を立て、スタッフ会議、勉強会の場を活用し、職員間で周知を図っている。また日々、振り返りを行い、意識の薄い時などは話し合いを行いながら、理念の実践に努めている。	法人理念の基、グループホーム独自の理念が掲げられており、職員は心、思い、知性、力を尽くした支援を常に念頭におきながら日々のケアを行っている。職員会議等でもいつも理念がもとになって、丁寧な言葉遣いや笑顔での挨拶を行う事で心が通じる事など理念の実践につながるよう職員間で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に開かれた事業所であるよう努めている。喫茶コーナーや研修室は、地域の方々がどなたでもご利用いただけるよう開放し、利用いただいている。また、ご利用者を対象に行っている各種教室などにも地域の方々に参加いただけるよう毎月地域へお知らせしている。又、地域の催しには積極的に参加している。	地域で開催される運動会や祭りに参加したり、敬老会からも招待状をもらったり、地域ボランティアの行事にも参加し、また近所の方からお花をもらうこともあり積極的に地域と交流をしている。ホーム開催の行事の際には地域の方へ案内をポスティングし、ホームにきてもらう取り組みも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	教室、映画、エステ、喫茶等すべて地域に開放し、暮らしの一部として活用していただけるようにしている。地域への啓発活動として、小学校や老人会に出向き、認知症の方が安心して地域で生活できる町作り活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、出席者からいただいたご意見や情報をサービス向上のために活用している。	2ヶ月に1回実施している運営推進会議には自治会長、複数の民生委員の他、大学の先生や他のグループホームの職員、また多くの家族の方が積極的に参加している。会議の中ではホームからの報告をはじめ、参加者から情報をもらったり、家族の要望を得る場として有意義な話し合いが持たれ、サービスの向上につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	啓発活動の報告を行い、依頼があれば出向いている。	区の担当者とは、あいさつに行ったり、ホームからの要望を伝えている。また、グループホーム連絡会を通して地域包括支援センターと連携し、小学校や老人会等で認知症の講習を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員による勉強会やマニュアルにより、身体拘束を理解し、拘束しないケアに努めている。	身体拘束については研修を通して職員の理解を深めており、拘束しないケアの実践に努めている。また玄関は施錠されておらず、ホームの入口となるエレベーターはテンキーが設置されているが、利用者自身でも利用しており、また希望にそって外に行く際は職員と一緒に出掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加、勉強会を行うなど、学ぶ機会を持っている。		

グループホーム美樹の園(玄武)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が研修等には参加していないが、研修を受けた職員が勉強会などの機会を通じて、全職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書などについては、十分にご理解いただけるよう努めていると共に、疑問や質問には十分にご理解いただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	声ボックスの設置、職員の聞き取りによる声は、スタッフ会議及び、運営推進会議で内容を報告している。内容は委員会で分析し、今後の運営に活かせるように努めている。	運営推進会議に多数の家族が参加しており、会議の中で要望を得たり、家族が訪問した際や電話で聞き取っている。また、年に2回のアンケートや玄関の意見箱で意見を聞く機会を設けている。得られた要望や意見は職員会議等で話し合い運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、提案等は、スタッフ会議等において聞き取っている。また、フィードバック時、個々に意見を聞き取っている。	毎月職員会議、ユニット会議、勉強会が設けられており、職員の情報の共有を図ると共に意見や提案を言える機会としている。法人の会議にも職員が出席している。また年に2回管理者と1対1で面接する機会が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施し、個々の評価を行っている。個々に目標を持って取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は月1回確保し、年2回はフィードバックを行い、指導する時間を確保して、法人外への研修も積極的に参加している。リーダー研修等の研修にも積極的に参加の機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市南区内及び堺市全体のグループホームの連絡会に参加している。南区内のグループホームが行なうイベントなどへの参加もしている。		

グループホーム美樹の園(玄武)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、面接時、入居時に本人の希望や要望、不安なことや思いを聴き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、面会時などに家族が許す限り、聴き取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	待機等ですぐに入居できない状況にあるので、法人の他のサービスを説明したり、他のグループホームの空き状況を伝えたり、他の施設(本人の状況にあった)を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を人生の先輩であることを忘れず、必要ときに必要なケアを提供するが、時には入居者から学び、思いを共に感じられている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	密に連絡を取り、又、イベント等と一緒に参加することで、思いを共にし、より良い関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	絵手紙や電話を使った交流や家族様、知人の皆様にイベントに参加していただき、大切な方との関係が途切れないよう努めている。	職員は利用者のこれまでの暮らしを大切にしており、利用者の希望にそってお墓参りや昔住んでいた所、友達の家と一緒にいたり、趣味のカラオケや芝居を観に行くなど個別で様々な支援をしている。またホームに近所の方が利用者に会いに来たり、利用者から絵手紙を送るなど関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間を把握し、教室や外出などを共に過ごしていただき、又、孤立している方には職員が間に入り、入居者同士より良い関係が作れるよう、支援している。		

グループホーム美樹の園(玄武)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年2回程度、お便りを出している。又、家族様からの相談をお受けしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当制をとっており、毎月居室担当が本人の意向などを聞き取っている。又、事例検討会議で意向や要望の把握をしている。	センター方式を基に作られたホーム独自のフォーマットを使用し、利用者一人ひとりの思いや暮らし方、出来る事出来ない事など現在の状況等を把握している。職員は担当制で毎月利用者の思いやADLの状態を確認し、職員会議で話し合い利用者の思いや意向を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族と協力し道しるべなど独自のツールを使用しながら、生活歴や環境など細かな情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個性を重視したプラン作成に努め、ケアプランチェック表により、7日分の様子を総合的に把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月に一度ご家族に意向や要望を聞きいている。また、居室担当チェック表、事例検討会議を活用し、ケアプランに反映している。	毎月担当者がチェック表にて利用者の現状を把握し、思いを聞き出し、職員間で話し合い、定期的に家族にも書面にて意向を聞き、一人ひとりに合ったケアプランが作成されている。基本的にプランは3ヶ月に1回見直されているが、日々プランにそった詳しい記録にてモニタリングしており、必要時にはプランの変更を行っている。また、必要に応じて医師の意見もプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの個性を重視したプラン作成に努め、ケアプランチェック表により、7日分の様子を総合的に把握できるようにしている。日々の記録に漏れがないかを定期的に確認し、ケアプランの見直しに活用している。又、随時、記録の書き方を学び、ケアプランに反映できる充実した記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスへの無料参加、法人全体のイベントへの参加。		

グループホーム美樹の園(玄武)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで必要性がなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時には日頃の様子を伝え、良い関係を築いている。往診日以外でも、電話での相談や他医療機関への紹介等もしていただいている。又、他の病院への受診支援を行っている。	利用者の希望にそって、ほとんどの方が入居前からのかかりつけ医が主治医となっており、往診や24時間の対応が可能となっています。看護師が職員として配置され、また併設のデイサービスの看護師もおり安心した医療体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム看護師、デイサービス看護師が18名の入居者と関わりがあり、相談や助言をしている。訪問看護師とも気軽に話ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院を訪ね、利用者の状況を常に把握できるようにしている。又、家族、病院関係との担当者会議を開き、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、常に家族と話を行っている。また、家族の希望によりターミナルケアを行っている。主治医、看護師、訪問看護師と連絡を取り合い、チームとなり取り組んでいる。	入居時に看取りの指針について説明し、ホームで出来る事について話しをしている。これまでに看取りの経験があり、利用者、家族の希望にそって、職員は家族、主治医、看護師と連携を図り、話し合いや勉強会を重ねて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急対応や心配蘇生法等の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日勤帯と夜勤帯を想定し、避難訓練を行っている。	消防署立会いの下、年に2回昼夜を想定した避難訓練が実施されており、その他通報訓練など自主訓練も行っている。運営推進会議でも高齢者世帯が多いという事で事業所自体が避難場所になるなどの話し合いがされている。また地域の方と協力体制も築いている。	

グループホーム美樹の園(玄武)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務終了後、接遇について振り返りを行っている。また、接遇、言葉遣いについての勉強会を行い、一人ひとりが心掛けている。	勉強会や会議にて接遇について話し合われており、丁寧な言葉遣いや言葉掛けが利用者との信頼関係にもつながると考えられている。不適切な言葉掛けがあった場合は、管理者、主任が職員と話し合い、指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	計画作成担当や居室担当が密に関わり、本人の思いや希望を表せるよう働きかけ、自己決定を優先している。できる限り自分らしさを引き出せるような支援を努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、入居者のペースに職員が合わせ、必要な時に必要な支援をしていくよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ、特に女性は女性らしさを忘れないよう(スキンケアや化粧、髪型、服装など)ケアプランに取り入れれたり、月に1度、訪問による理美容とエステを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューについては、委託業者が行っているが、箸、湯呑み、茶碗は自分の好みのもを使用し、準備、食事、片付けは入居者と職員が一緒に行っている。クッキング計画担当を中心に月2回以上、手作りの日を設定している。	献立は委託業者が立てているが、食事会議で利用者の要望を伝え献立に反映している。食事は厨房からホームに運ばれてくるが、盛り付けや配膳、後片付けを利用者と一緒に行っている。月に2回おやつ作りをしたり、毎日米とぎをしてもらったり、炊き込みご飯を作るなどの支援もしている。食事は職員も一緒に楽しく会話しながら取り、職員一人は検食として同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎日記録を取り、水分補給の時間を設け、確保している。栄養バランスは、栄養士による管理がされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態に応じた口腔ケアの声掛け、介助、確認を行っている。必要に応じて、訪問歯科を行っている。		

グループホーム美樹の園(玄武)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗のある方でも、おむつを使うのではなく、まずは排泄パターンをつかみ、トイレでは排泄ができるよう努めている。おむつを使うときも順を踏み、行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。現在は紙パンツから布パンツになったり、居室にトイレが設置されている事もあり行きたい時に行ける環境から失敗がなくなり自立できるようになった方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々体操を行ったり、散歩をしたり、運動を行っている。又、整腸作用のある飲み物を必要な方には提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り、希望に沿えるよう支援している。	入浴は基本2日に1回、午後1時から7時までであるが、毎日入る方や併設のデイサービスの広いお風呂を希望する方など利用者の希望に合わせている。脱衣場には個人のロッカーが設置されており一人ひとり好みの石鹸やシャンプーが準備されている。拒否傾向のある方は声掛けを工夫し、入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方には、職員が話を聞いた、足浴やホットドリンクなどリラックス効果があることを支援している。日中は、状態に応じ必要な方には、1～2時間休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作り、いつでも確認できるようにしている。薬の効果効能、副作用なども主治医、薬剤師などに聞いている。服薬支援は、マニュアルに沿って行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	教室やイベントに参加し趣味の継続や毎日の余暇活動では思考を凝らし楽しみごと、気分転換支援している。また長年の習慣は継続できるよう環境を整え充実した生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外食など希望に沿って、できる限りの支援を行っている。	ホームの広い庭や近くの公園を散歩したり、スーパーに買物に行ったり、車で遠足に出掛けている。また利用者の希望に合わせて個別で外食や少人数で家族と一緒に有馬温泉や伊勢に一泊旅行するなど様々な外出支援をしている。	



グループホーム美樹の園(玄武)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望のある方は、現金を所持し、使われる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置している。希望により、居室に電話回線がある方もあり、自由に話ができるようにしている。又、文字を書ける方には、定期的に家族への手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースでのテレビやステレオの音量は、スタッフが気にかけて調節を行っている。光の差し込む部分には、カーテンを設置し、光加減を調節している。テーブル等には、季節にあわせて花などのレイアウトをし、季節感を出している。	1つのフロアに2ユニットがある広いホーム内は町屋風の通りようになっており、天井が高く開放感があり、明るい空間となっている。利用者の作品を飾ったり、観葉植物を置いたり、テーブルには花を飾り、季節感を出している。廊下にはテーブルセットを置いて少し離れた場所で利用者が思い思いに寛げる場所が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ダイニングテーブルとソファの2か所の空間を、又、廊下にもソファを設置している。一人になりたい時には居室で、みんなと一緒にいたいときはリビングで、本人の意思を尊重した援助を常に考える。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や物品をお部屋に置いて、今までの生活をできるだけ崩さないように心掛けている。又、家族、本人の意向を重視し、安全面の配慮を行いながら、基本的には居室のレイアウトは家族の意向に近い配置を行っている。	洗面所とトイレが完備された居室は大変広く、自宅で使っていた応接セットや使い慣れたイス、小物入れや大切にされている仏壇、家族の写真などが持ち込まれており、利用者一人ひとりの個性に合った居室づくりがなされている。また居室に電話をひいている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室担当チェック表で毎月のADLの変化を把握し、できる限り自分のできることをしていただけるようコミュニケーションを取っている。		